

職場の発達障害の理解と対応

松崎 一葉、大滝 優

筑波大学 医学医療系 産業精神医学・宇宙航空精神医学

近年、職場における発達障害に対して関心が高まっている。国立精神・神経医療研究センターの調査によると、広汎性発達障害 (PDD) の有病率は 0.9-1.6% が該当する可能性が示されており、顕著ではないが PDD の特性を示す者まで含めると、有病率は 10% を超える可能性が指摘されている。Weintraub(2011) は、世界的には 1975 年に 1/5,000 人であった発達障害の有病率が 2009 年には 1/110 人となり、急速に発達障害患者が増加していることを報告している。実際に生物学的に発症率が高くなっているとしても、この急増はそれだけでは説明がつかない。

その背景には大きく 2 つのことが関係していると考えられる。1 つは発達障害という概念の変化である。以前は知的障害や脳性麻痺などの障害の総称として、健常者との連続性は隔絶されていたが、近年では知的障害のない自閉症スペクトラム障害や注意欠陥・多動性障害の存在が明らかになるにつれて、健常者との境界がなくなり、連続的につながっているものとしてみられるようになった。これにより、多くの発達障害患者が存在することが明らかになってきた。

もう 1 つの背景としては、雇用環境や社会構造の変化がある。合理化・人員削減に伴う労働負荷による周囲の余力のなさ、業務内容の高度化・複雑化といったことが、発達障害を抱える労働者に大きな負担となっていることが考えられる。学生時代は何か問題が起きて「ちょっと変わった人」という程度でみられていたが、社会で働くようになり、ミスの許されない職場や高度なコミュニケーション能力を必要とする調整業務などで不適応を起こしている。職場で叱責され、否定され、誤解され続けることで、心理的に追いつめられて孤立し、自己評価も低下し、抑うつ状態を呈して事例性として顕在

化しているのが現状である。

このような職場における発達障害の現状を改善していくためには、本人の特性を考慮し、障害を持つことによる不利な部分を軽減して、本人のパフォーマンスが最大限に発揮できるような環境調整を行うことが望ましい。ポイントは「構造化」である。「構造化」とは、物事をわかりやすくシンプルなものにすることであり、作業環境・作業手順から指示の与え方までに適用することができる。職務や指示系統を見直し、シンプルでわかりやすい形に再構築することは、より快適な職場環境の形成にもつながる。実際に、そのような環境調整が行えた場合、健常者よりも優れたパフォーマンスを発揮する人も少なくない。また、適切な職務配置を行うためには、必要に応じて地域障害者職業センターの障害者職業カウンセラーに相談したり、ジョブコーチによる支援制度を活用したりすることにより、関係機関の専門的見地からの助言や援助を受けることも有効であると考えられる。

ただし、このような職場の配慮を妨げるものとして、本人に対する職場の陰性感情が存在するケースも多い。発達障害による「社会性の障害」「コミュニケーションの障害」「想像力の障害」のために、職場での人間関係が悪くなっているのである。この場合、本人には「何もできない社員」というレッテルが貼られ、周囲から十分なサポートが得られないのである。職場内で発達障害の特性を十分に理解しておくことが必要であるが、陰性感情が生まれる背景には本人の性格傾向が周囲に好意的にみられるかどうかということも大きく関与していると考えられる。本講演では、発達障害を抱える労働者の性格傾向と職場から得られる支援の関係性などの具体的な事例を交えながら、職場における発達障害の対応策について検討していく。

座長略歴

角田 透 (つのだ とおる)

【学歴】 1975 年 3 月 慶応義塾大学医学部卒業

【職歴】

- 1975 年 4 月 慶応義塾大学助手
- 1987 年 11 月 杏林大学講師
- 1991 年 4 月 同大学助教授
- 2000 年 5 月 同大学教授
- 2016 年 4 月 同大学客員教授
- 2017 年 4 月 同大学名誉教授

【受賞歴】

- 2004 年 10 月 東京労働局長功績賞表彰
- 2014 年 7 月 日本産業精神保健学会理事長賞受賞
- 2017 年 6 月 厚生労働大臣功労賞受賞

【専門分野】 社会医学、公衆衛生学

【資格】 医師、医学博士、労働衛生コンサルタント

【主な所属学会・役職】

- 日本産業衛生学会理事、日本産業精神保健学会副理事長、日本ストレス学会副理事長

演者略歴

松崎 一葉 (まつざき いちよう)

【学歴】

- 1985.3 筑波大学 医学専門学群 卒業
- 1989.3 筑波大学 医学研究科 環境生態系精神衛生学 修士

【職歴】

- 1989. 4-1990.6 医療法人清風会豊和麗病院 精神科 医師
- 1990. 7-1993.6 筑波大学 社会医学系 助手
- 1993. 7-1994.3 医療法人清風会豊和麗病院 精神科医師精神科 医長
- 1994. 4-2002.2 筑波大学 社会医学系 講師
- 2002. 2-2004.3 筑波大学 社会医学系 助教授
- 2004. 4-2007.3 筑波大学 大学院人間総合科学研究科 助教授
- 2007. 4-2007. 筑波大学 人間総合科学研究科 准教授
- 2007.10-2011.9 筑波大学 人間総合科学研究科 教授

2011.10- 現在至 筑波大学 医学医療系 教授

【所属】

- ・筑波大学大学院 医学医療系 産業精神医学・宇宙医学研究グループ
- ・WPI(世界トップレベル研究拠点形成プログラム)、IIS(国際統合睡眠医科学研究機構) 主任研究員
- ・科学研究費「宇宙に生きる」研究代表

【専門分野】 産業精神医学・宇宙航空精神医学

【学位】 医学博士 (筑波大学)

【主な所属学会・役職】 日本精神神経学会、日本産業衛生学会 (評議員)、日本産業精神保健学会 (理事)

- 日本宇宙航空環境医学会、日本思春期学会 (常務理事)、日本社会政策学会、宇宙飛行士健康診査専門委員会・委員、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)・客員研究員 (併任)、茨城労働局・地方労災医員